

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

めまい・平衡障害治療剤

日本薬局方 ベタヒスチンメシル酸塩錠

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工P」

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工P」

Betahistine Mesilate Tab.6mg・12mg

剤形	素錠		
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意 - 医師の処方箋により使用すること）		
規格・含量	錠 6mg：1錠中ベタヒスチンメシル酸塩 6mg 含有 錠 12mg：1錠中ベタヒスチンメシル酸塩 12mg 含有		
一般名	和名：ベタヒスチンメシル酸塩 洋名：Betahistine Mesilate		
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日		錠 6mg	錠 12mg
	承認年月日	2012年 2月 15日	2012年 2月 15日
	薬価基準収載	2021年 4月 21日	2021年 4月 21日
	発売年月日	2006年 3月	1978年 4月
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	販売元：日医工株式会社 製造販売元：日医工ファーマ株式会社		
医薬情報担当者の連絡先			
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ https://www.nichiiko.co.jp/		

本IFは2021年4月改訂（第12版，承継に伴う改訂）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は，医薬品医療機器総合機構ホームページ
<https://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

【IFの様式】

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤字・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

【IFの作成】

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IFの発行】

- ① 「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VI. 薬効薬理に関する項目	13
1. 開発の経緯	1	1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群 ..	13
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 薬理作用	13
II. 名称に関する項目	2	VII. 薬物動態に関する項目	14
1. 販売名	2	1. 血中濃度の推移・測定法	14
2. 一般名	2	2. 薬物速度論的パラメータ	15
3. 構造式又は示性式	2	3. 吸収	15
4. 分子式及び分子量	2	4. 分布	15
5. 化学名（命名法）	2	5. 代謝	16
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2	6. 排泄	16
7. CAS登録番号	2	7. トランスポーターに関する情報	16
III. 有効成分に関する項目	3	8. 透析等による除去率	16
1. 物理化学的性質	3	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	17
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	1. 警告内容とその理由	17
3. 有効成分の確認試験法	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） ..	17
4. 有効成分の定量法	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	17
IV. 製剤に関する項目	4	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	17
1. 剤形	4	5. 慎重投与内容とその理由	17
2. 製剤の組成	4	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法 ..	17
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意	4	7. 相互作用	17
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	8. 副作用	17
5. 調製法及び溶解後の安定性	9	9. 高齢者への投与	18
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	9	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与	18
7. 溶出性	9	11. 小児等への投与	18
8. 生物学的試験法	11	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	18
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	11	13. 過量投与	18
10. 製剤中の有効成分の定量法	11	14. 適用上の注意	18
11. 力価	11	15. その他の注意	18
12. 混入する可能性のある夾雑物	11	16. その他	18
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	11	IX. 非臨床試験に関する項目	19
14. その他	11	1. 薬理試験	19
V. 治療に関する項目	12	2. 毒性試験	19
1. 効能又は効果	12	X. 管理的事項に関する項目	20
2. 用法及び用量	12	1. 規制区分	20
3. 臨床成績	12		

2.	有効期間又は使用期限	20
3.	貯法・保存条件	20
4.	薬剤取扱い上の注意点	20
5.	承認条件等	20
6.	包装	20
7.	容器の材質	20
8.	同一成分・同効薬	20
9.	国際誕生年月日	20
10.	製造販売承認年月日及び承認番号	21
11.	薬価基準収載年月日	21
12.	効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	21
13.	再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容	21
14.	再審査期間	21
15.	投薬期間制限医薬品に関する情報	21
16.	各種コード	21
17.	保険給付上の注意	21
X I.	文献	22
1.	引用文献	22
2.	その他の参考文献	22
X II.	参考資料	22
1.	主な外国での発売状況	22
2.	海外における臨床支援情報	22
X III.	備考	23
1.	調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	23
2.	その他の関連資料	26

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤は、ベタヒスチンメシル酸塩を有効成分とするめまい・平衡障害治療剤である。

ベタヒスチンメシル酸塩を主成分とするメタヒスロン錠を後発医薬品として武田テバ薬品株式会社(旧大正薬品工業株式会社)が開発し、「メタヒスロン錠」及び「メタヒスロン錠 12mg」の名称で1976年12月24日に承認された。

医療事故防止のため、以下の販売名変更を行った。

承認年月日	販売名	旧販売名
2005年6月6日	メタヒスロン錠 6mg	メタヒスロン錠
2012年2月15日	ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「テバ」	メタヒスロン錠 6mg
	ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「テバ」	メタヒスロン錠 12mg

2021年4月1日、武田テバ薬品株式会社から日医工ファーマ株式会社に製造販売承認が承継され、その際に販売名の屋号を「テバ」から「日医工P」に変更した。

2021年4月21日、日医工株式会社が販売を開始した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は、ベタヒスチンメシル酸塩を有効成分とするめまい・平衡障害治療剤である。
- (2) PTPシートはピッチコントロールを行い、1錠ごとに成分名、含量を表示した。
- (3) 副作用(頻度不明)として、消化器(悪心・嘔吐)及び過敏症(発疹)が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」

(2) 洋名

Betahistine Mesilate Tab.6mg・12mg

(3) 名称の由来

一般名より

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

ベタヒスチンメシル酸塩 (JAN)

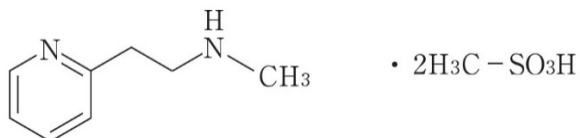
(2) 洋名 (命名法)

Betahistine Mesilate (JAN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_8H_{12}N_2 \cdot 2CH_4O_3S$

分子量 : 328.41

5. 化学名 (命名法)

N-Methyl-2-pyridin-2-ylethylamine dimethanesulfonate (IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

別名 : メシル酸ベタヒスチン

7. CAS登録番号

5638 - 76 - 6 (ベタヒスチン)

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶又は結晶性の粉末である。(無臭又はわずかに特異なおいがあり、味は苦い。)

(2) 溶解性

水に極めて溶けやすく、酢酸(100)に溶けやすく、エタノール(99.5)にやや溶けにくい。
希塩酸に溶ける。

(3) 吸湿性

吸湿性である。

(4) 融点(分解点), 沸点, 凝固点

融点: 110~114°C (乾燥後)

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 紫外可視吸光度測定法

本品の塩酸試液溶液につき吸収スペクトルを測定し、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波長のところに、同様の強度の吸収を認める。

(2) 赤外吸収スペクトル測定法

臭化カリウム錠剤法により試験を行い、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

(3) 定性反応

本品はメシル酸塩の定性反応(2)を呈する。

4. 有効成分の定量法

電位差滴定法

本品を酢酸に溶かし、無水酢酸を加え、過塩素酸で滴定する。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別, 外観及び性状

販売名	ベタヒスチンメシル酸塩 錠 6mg「日医工 P」	ベタヒスチンメシル酸塩 錠 12mg「日医工 P」
性状	白色の割線入り素錠	
外形		
直径 (mm)	6.5	8.0
厚さ (mm)	2.3	3.0
質量 (mg)	約 100	約 200
識別コード	本体 : ① 54 PTP : TYK54	本体 : ① 55 PTP : TYK55

(2) 製剤の物性

(「IV - 4.製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

(3) 識別コード

(「IV - 1.(1)剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

(4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分 (活性成分) の含量

販売名	ベタヒスチンメシル酸塩 錠 6mg「日医工 P」	ベタヒスチンメシル酸塩 錠 12mg「日医工 P」
有効成分	1 錠中 ベタヒスチンメシル酸塩 6mg	1 錠中 ベタヒスチンメシル酸塩 12mg
添加物	タルク, 低置換度ヒドロキシプロピルセルロース, 含水二酸化ケイ素, 結晶セルロース, ヒドロキシプロピルセルロース, ステアリン酸カルシウム	

(2) 添加物

(「IV - 2.(1) 有効成分 (活性成分) の含量」の項参照)

(3) その他

該当記載事項なし

3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

(1) 長期保存試験

◇ ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 長期保存試験 (25°C・60%RH) [PTP 包装 (PTP +アルミ袋+紙箱)]

試験項目 ＜規格＞	保存期間	
	開始時	36 ヶ月
性状 n=3 ^{※1} ＜白色の素錠＞	適合	適合
確認試験 n=3 ^{※1} (吸収スペクトル)	適合	適合
純度試験 n=3 ^{※1} ＜※2＞	適合	適合
含量均一性 n=3 ^{※1} ＜判定値が 15.0%を超えない＞	適合	適合
溶出性 (%) n=3 ^{※1} ＜15 分, 85%以上＞	97~105	95~105
含量 (%) ^{※3} n=3 ^{※1} ＜93.0~107.0%＞	100.5±0.6 ^{※4}	100.6±0.5 ^{※4}

※1 : 3 ロット 各ロット n=3 ※2 : 類縁物質 I 0.6%以下, 総類縁物質 1.0%以下 ※3 : 表示量に対する含有率 (%)
※4 : 平均値±標準偏差 (S.D.)

◇ ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 長期保存試験 (25°C・60%RH) [バラ包装 (ポリエチレン容器 (乾燥剤あり) +紙箱)]

試験項目 ＜規格＞	保存期間	
	開始時	36 ヶ月
性状 n=3 ^{※1} ＜白色の素錠＞	適合	適合
確認試験 n=3 ^{※1} (吸収スペクトル)	適合	適合
純度試験 n=3 ^{※1} ＜※2＞	適合	適合
含量均一性 n=3 ^{※1} ＜判定値が 15.0%を超えない＞	適合	適合
溶出性 (%) n=3 ^{※1} ＜15 分, 85%以上＞	97~105	94~106
含量 (%) ^{※3} n=3 ^{※1} ＜93.0~107.0%＞	100.5±0.6 ^{※4}	100.4±0.4 ^{※4}

※1 : 3 ロット 各ロット n=3 ※2 : 類縁物質 I 0.6%以下, 総類縁物質 1.0%以下 ※3 : 表示量に対する含有率 (%)
※4 : 平均値±標準偏差 (S.D.)

◇ ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」 長期保存試験 (25°C・60%RH) [PTP 包装 (PTP +アルミ袋+紙箱)]

試験項目 <規格>	保存期間	
	開始時	36 ヶ月
性状 n=3 ^{※1} <割線を有する白色の素錠>	適合	適合
確認試験 n=3 ^{※1} (吸収スペクトル)	適合	適合
純度試験 n=3 ^{※1} <※2>	適合	適合
含量均一性 n=3 ^{※1} <判定値が 15.0%を超えない>	適合	適合
溶出性 (%) n=3 ^{※1} <15 分, 85%以上>	97~105	95~104
含量 (%) ^{※3} n=3 ^{※1} <93.0~107.0%>	101.0±0.4 ^{※4}	100.5±0.6 ^{※4}

※1 : 3 ロット 各ロット n=3 ※2 : 類縁物質 I 0.6%以下, 総類縁物質 1.0%以下 ※3 : 表示量に対する含有率 (%)
 ※4 : 平均値±標準偏差 (S.D.)

◇ ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」 長期保存試験 (25°C・60%RH) [バラ包装 (ポリエチレン容器 (乾燥剤あり) +紙箱)]

試験項目 <規格>	保存期間	
	開始時	36 ヶ月
性状 n=3 ^{※1} <白色の素錠>	適合	適合
確認試験 n=3 ^{※1} (吸収スペクトル)	適合	適合
純度試験 n=3 ^{※1} <※2>	適合	適合
含量均一性 n=3 ^{※1} <判定値が 15.0%を超えない>	適合	適合
溶出性 (%) n=3 ^{※1} <15 分, 85%以上>	97~105	85~105
含量 (%) ^{※3} n=3 ^{※1} <93.0~107.0%>	101.0±0.4 ^{※4}	100.9±0.4 ^{※4}

※1 : 3 ロット 各ロット n=3 ※2 : 類縁物質 I 0.6%以下, 総類縁物質 1.0%以下 ※3 : 表示量に対する含有率 (%)
 ※4 : 平均値±標準偏差 (S.D.)

(2) 無包装の安定性試験

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

試験項目 <規格>	保存期間	
	開始時	3 ヶ月
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	84~100 ^{**}	92~101
残存率 (%)	100	99
(参考値) 硬度 (kg)	7.4	7.0

※：11/12 錠適合のため、規格に適合した。

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 無包装 30℃・75%RH [遮光, 開放]

試験項目 <規格>	保存期間	
	開始時	1 ヶ月
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	84~100 ^{**}	81~103 ^{**}
残存率 (%)	100	102
(参考値) 硬度 (kg)	7.4	1.8

※：11/12 錠適合のため、規格に適合した。

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 無包装 曝光 [気密容器]

試験項目 <規格>	総曝光量	
	開始時	120 万 Lx・hr
性状 <白色の素錠>	白色の素錠	白色の素錠
溶出性 (%) <15 分, 85%以上>	84~100 ^{**}	91~100
残存率 (%)	100	100
(参考値) 硬度 (kg)	7.4	6.1

※：11/12 錠適合のため、規格に適合した。

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」 無包装 40℃ [遮光]

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 ＜白色の割線入り素錠＞	WB01	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた
純度試験 (HPLC) ＜※1＞	WB01	適合	適合	適合	適合
崩壊性 ＜水, 30 分以内＞	WB01	1'26"~1'37"	1'47"~2'10"	2'04"~2'15"	2'15"~2'26"
溶出性 (%) ＜15 分, 85%以上＞	WB01	91~96	85~92	82~95 ^{※3}	87~103
含量 (%) ^{※2} ＜93.0~107.0%＞	WB01	101.1	100.8	100.6	99.7
(参考値) 硬度 (kg)	WB01	10.2~12.3	9.8~11.2	9.9~11.3	10.9~12.6

※1：類縁物質 I 0.6%以下，総類縁物質 1.0%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%) ※3：11/12 錠が適合のため，規格に適合した。

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」 無包装 30℃・75%RH [遮光]

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 ＜白色の割線入り素錠＞	WB01	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた
純度試験 (HPLC) ＜※1＞	WB01	適合	適合	適合	適合
崩壊性 ＜水, 30 分以内＞	WB01	1'26"~1'37"	0'17"~0'21"	0'20"~0'24"	0'24"~0'26"
溶出性 (%) ＜15 分, 85%以上＞	WB01	91~96	72~91 ^{※3}	74~95 ^{※4}	84~98 ^{※5}
含量 (%) ^{※2} ＜93.0~107.0%＞	WB01	101.1	102.2	102.2	102.0
(参考値) 硬度 (kg)	WB01	10.2~12.3	2.4~3.2	2.6~3.3	2.6~3.2

※1：類縁物質 I 0.6%以下，総類縁物質 1.0%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%) ※3：4/6 錠が不適合のため，規格を逸脱した。 ※4：3/12 錠が不適合のため，規格を逸脱した。 ※5：4/12 錠が不適合のため，規格を逸脱した。
規格外：太字

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」 無包装 室温，曝光 (2000Lx)

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	総曝光量				
		開始時	30 万 Lx・hr	60 万 Lx・hr	90 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 ＜白色の割線入り素錠＞	WB01	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた	白色の錠剤であつた
純度試験 (HPLC) ＜※1＞	WB01	適合	適合	適合	適合	適合
崩壊性 ＜水, 30 分以内＞	WB01	1'26"~1'37"	0'55"~1'39"	1'26"~1'32"	1'38"~1'51"	1'03"~1'17"
溶出性 (%) ＜15 分, 85%以上＞	WB01	91~96	85~98	96~98	80~101 ^{※3}	89~99
含量 (%) ^{※2} ＜93.0~107.0%＞	WB01	101.1	101.0	101.2	100.9	101.2
(参考値) 硬度 (kg)	WB01	10.2~12.3	9.9~11.6	9.7~11.4	9.9~11.8	8.4~10.1

※1：類縁物質 I 0.6%以下，総類縁物質 1.0%以下 ※2：表示量に対する含有率 (%) ※3：11/12 錠が適合のため，規格に適合した。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当しない

7. 溶出性

（1）溶出規格

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」及びベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」は、日本薬局方医薬品各条に定められたベタヒスチンメシル酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

（試験液に水 900mL を用い、パドル法により、50rpm で試験を行う）

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
6mg, 12mg	15 分	85%以上

（2）溶出試験²⁾

<ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成 18 年 11 月 24 日薬食審査発第 1124004 号）

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

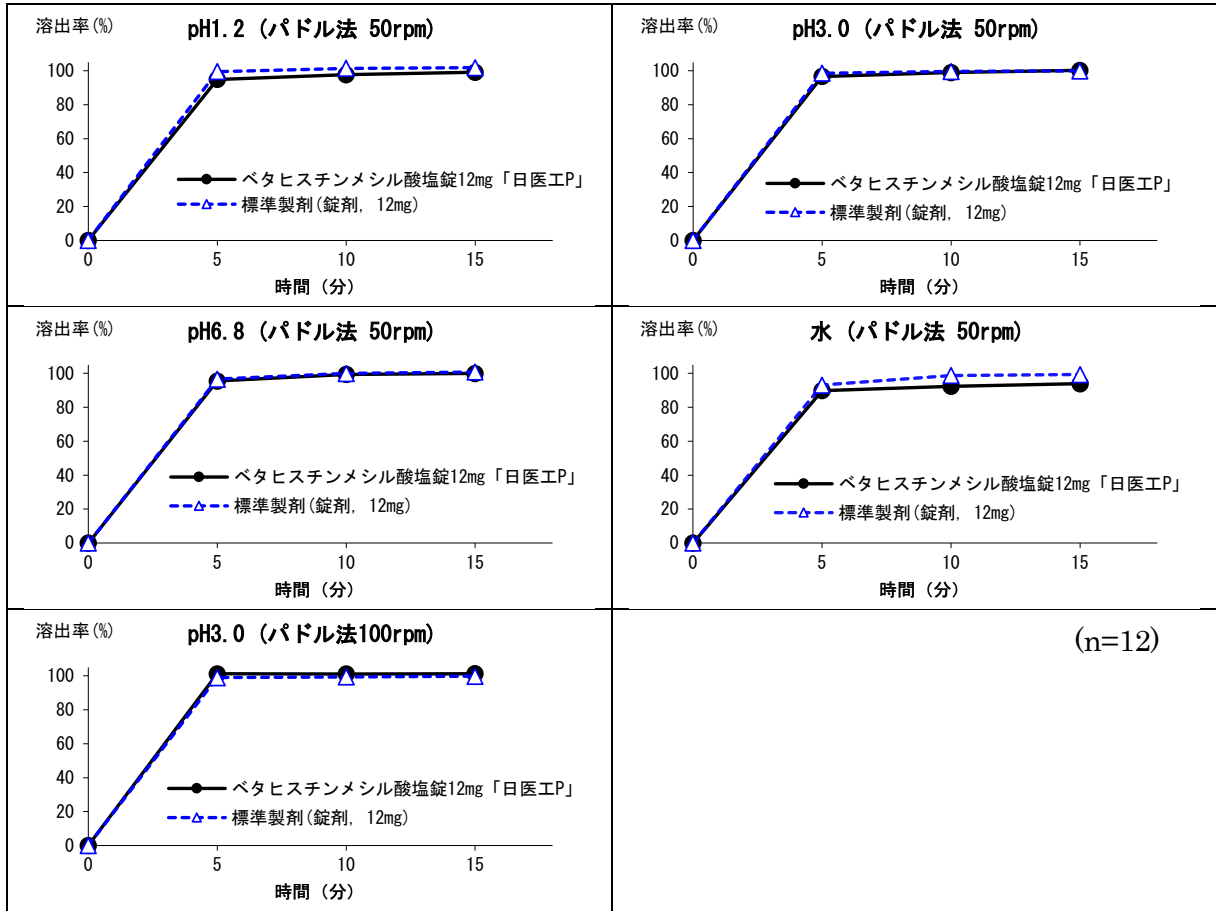
回転数及び試験液：50rpm（pH1.2, pH3.0, pH6.8, 水）, 100rpm（pH3.0）

[判定]

- ・ pH1.2（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ pH3.0（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ pH6.8（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ 水（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ pH3.0（100rpm）では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての試験液において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=12)

(3) 含量が異なる経口固形剤の生物学的同等性試験³⁾

<ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」>

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」は、「含量が異なる経口固形剤の生物学的同等性試験ガイドライン (平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号)」に基づき、ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

試験条件

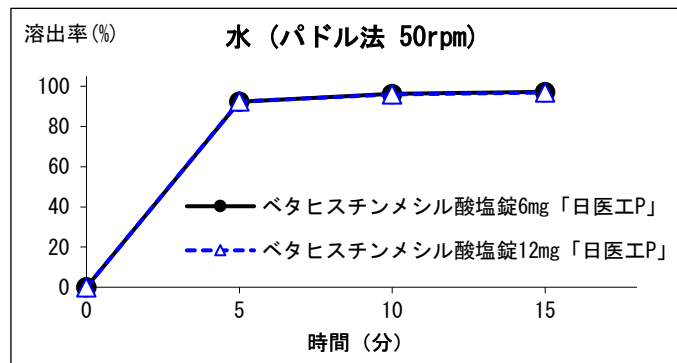
装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法
回転数及び試験液：50rpm (水)

[判定]

- ・水 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。また、最終比較時点 (15 分) における本品の個々の溶出率は、本品の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤 (ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」) と比較した結果、「含量が異なる経口固形剤の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合したことから、生物学的に同等とみなされた。

(溶出曲線)



(n=12)

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法

試料溶液につき吸収スペクトルを測定するとき、波長 259～263nm に吸収の極大を示す。

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：ジエチルアミン，酢酸，水，ラウリル硫酸ナトリウム，アセトニトリル混液

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

記載事項なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

下記の疾患に伴うめまい，めまい感
メニエール病，メニエール症候群，眩暈症

2. 用法及び用量

錠 6mg：通常，成人は1回1～2錠（ベタヒスチンメシル酸塩として1回6～12mg）を1日3回食後経口投与する。

ただし，年齢，症状により適宜増減する。

錠 12mg：通常，成人は1回1錠を1日3回食後経口投与する。

（なおベタヒスチンメシル酸塩としての1回の用量は6～12mgである。）

ただし，年齢，症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

（1）臨床データパッケージ

該当資料なし

（2）臨床効果

該当資料なし

（3）臨床薬理試験

該当資料なし

（4）探索的試験

該当資料なし

（5）検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

（6）治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

ジフェニドール塩酸塩, dl - イソプロテレノール塩酸塩

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序⁴⁾

ベタヒスチンメシル酸塩は、実験的内耳微小循環障害を改善すると共に、血管透過性を調整して内リンパ水腫を除去する。また、脳血流量増加作用もある。このほか、前庭器官や中枢神経に対して、ヒスタミン H₁ 受容体刺激作用（部分作動薬として作用する）や H₃ 受容体遮断作用を示す。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

＜ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」＞³⁾

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号）」に基づき、ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

＜ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」＞⁵⁾

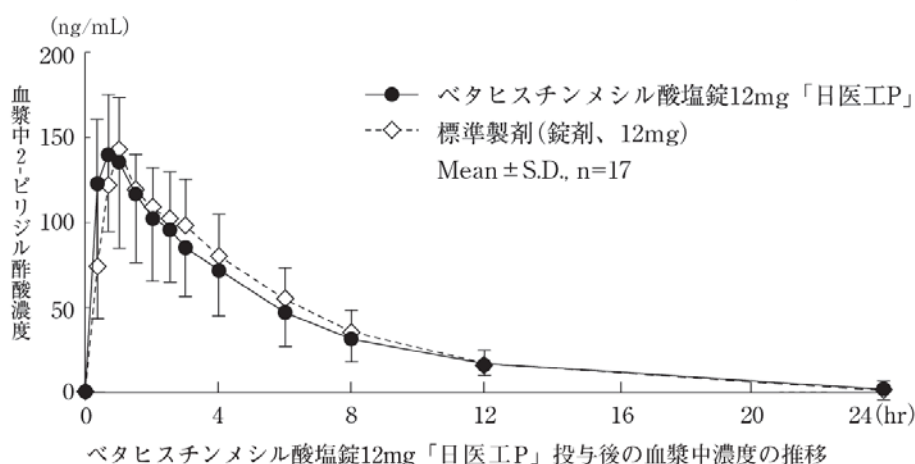
後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインの一部改正について（平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号）

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」と標準製剤をクロスオーバー法により、それぞれ 1 錠（ベタヒスチンメシル酸塩として 12mg）を健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中 2-ピリジル酢酸（ベタヒスチンメシル酸塩の主代謝物）濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC, Cmax）について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」	805.13±276.72	169.88±61.78	0.80±0.55	4.65±2.72
標準製剤 (錠剤, 12mg)	849.78±226.14	161.96±47.46	1.30±0.83	4.14±1.22

(1 錠投与, Mean±S.D., n=17)



血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

（「Ⅷ - 10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与」の項参照）

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

該当記載事項なし

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

【慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）】

- (1) 消化性潰瘍の既往歴のある患者及び活動性の消化性潰瘍のある患者 [本剤はヒスタミン類似作用を有するため、H₂受容体を介して胃酸分泌亢進を引き起こすおそれがある。]
- (2) 気管支喘息の患者 [本剤はヒスタミン類似作用を有するため、H₁受容体を介して気道の収縮を引き起こすおそれがある。]
- (3) 褐色細胞腫のある患者 [本剤はヒスタミン類似作用を有するため、アドレナリンの過剰分泌により血圧上昇を引き起こすおそれがある。]

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当記載事項なし

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

(2) 併用注意とその理由

該当記載事項なし

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

該当記載事項なし

(3) その他の副作用

	頻度不明
消化器	悪心・嘔吐
過敏症 ^{注)}	発疹

注) このような症状があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

副作用：過敏症（発疹）があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

11. 小児等への投与

小児に対する安全性は確立していない。（使用経験が少ない。）

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当記載事項なし

13. 過量投与

該当記載事項なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

15. その他の注意

該当記載事項なし

16. その他

該当記載事項なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」	処方箋医薬品（注意 - 医師等の 処方箋により使用すること）
有効成分	ベタヒスチンメシル酸塩	なし

2. 有効期間又は使用期限

外箱，ラベルに表示（3年：安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

湿気を避けて室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

（1）薬局での取り扱い上の留意点について

（「規制区分」，「貯法・保存条件」の項参照）

（2）薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目」の項参照）

（3）調剤時の留意点について

該当記載事項なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

販売名	PTP 包装	バラ包装
ベタヒスチンメシル酸 塩錠 6mg「日医工 P」	100 錠（10 錠× 10） 1000 錠（10 錠×100）	500 錠
ベタヒスチンメシル酸 塩錠 12mg「日医工 P」	100 錠（10 錠× 10） 1000 錠（10 錠×100）	500 錠

7. 容器の材質

販売名	PTP 包装	バラ包装
ベタヒスチンメシル酸 塩錠 6mg「日医工 P」	ポリ塩化ビニル・ポリ塩化 ビニリデン・ポリエチレン 多層フィルム，アルミニウ ム箔	ポリエチレン容器，ポリ プロピレンキャップ
ベタヒスチンメシル酸 塩錠 12mg「日医工 P」		

8. 同一成分・同効薬

同一成分：メリスロン錠 6mg，メリスロン錠 12mg

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	承認年月日	承認番号
ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工P」	2012年 2月 15日	22400AMX00177000
ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工P」	2012年 2月 15日	22400AMX00178000

旧販売名	承認年月日	承認番号
ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「テバ」	2012年 2月 15日	22400AMX00177000
ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「テバ」	2012年 2月 15日	22400AMX00178000

旧販売名	承認年月日	承認番号
メタヒスロン錠 6mg	2005年 6月 6日	21700AMZ00641000

旧販売名	承認年月日	承認番号
メタヒスロン錠	1976年 12月 24日	(51AM) 931
メタヒスロン錠 12mg	1976年 12月 24日	(51AM) 1053

11. 薬価基準収載年月日

販売名	薬価基準収載年月日
ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工P」	2021年 4月 21日
ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工P」	2021年 4月 21日

旧販売名	薬価基準収載年月日
ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「テバ」	2012年 6月 22日
ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「テバ」	2012年 6月 22日

12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は, 投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工P」	1339005F1016 (統一収載コード)	620234806	102348006
ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工P」	1339005F2012 (統一収載コード)	620235711	102357211

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 日医工ファーマ株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 日医工ファーマ株式会社 社内資料 (12mg : 溶出試験)
- 3) 日医工ファーマ株式会社 社内資料 (6mg : 生物学的同等性試験)
- 4) 第十五改正日本薬局方解説書 C - 3914, 廣川書店 (2006)
- 5) 日医工ファーマ株式会社 社内資料 (12mg : 生物学的同等性試験)

2. その他の参考文献

なし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

XIII. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意

本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。

試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。

医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

(1) 粉砕

粉砕物の安定性試験

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 粉砕物 40℃ [遮光, 気密容器]

試験項目 <規格>	保存期間	
	開始時	4 週
性状	白色	白色
含量 (%) ※ <93.0~107.0%>	101.4	100.6

※：表示量に対する含有率 (%)

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 粉砕物 30℃・75%RH [遮光, 開放]

試験項目 <規格>	保存期間		
	開始時	1 週	4 週
性状	白色	白色	白色
含量 (%) ※ <93.0~107.0%>	101.4	94.8	94.7

※：表示量に対する含有率 (%)

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」 粉砕物 曝光 [気密]

試験項目 <規格>	総曝光量	
	開始時	120 万 Lx・hr
性状	白色	白色
含量 (%) ※ <93.0~107.0%>	101.4	100.4

※：表示量に対する含有率 (%)

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」

試験実施期間：2012/4/23～2012/5/21

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」 粉砕物 40℃ [遮光, 気密容器]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間				
		開始時	1 週	2 週	3 週	4 週
性状	WB01	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末
純度試験 (HPLC) <※1>	WB01	適合	適合	適合	適合	適合
含量 (%) ※2 <93.0～107.0%>	WB01	101.1	100.4	99.9	100.6	100.8

※1：①RRT1.9 のピーク面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積の 3/5 より大きくない。 ②試料溶液のベタヒスチン以外のピーク合計面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積より大きくない。 ※2：表示量に対する含有率 (%)

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」 粉砕物 30℃・75%RH [遮光, 開放]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間				
		開始時	1 週	2 週	3 週	4 週
性状	WB01	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末
純度試験 (HPLC) <※1>	WB01	適合	適合	適合	適合	適合
含量 (%) ※2 <93.0～107.0%>	WB01	101.1	93.2	94.5	93.9	94.3

※1：①RRT1.9 のピーク面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積の 3/5 より大きくない。 ②試料溶液のベタヒスチン以外のピーク合計面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積より大きくない。 ※2：表示量に対する含有率 (%)

◇ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」 粉砕物 室温, 曝光 (2000Lx)

試験項目 <規格>	ロット 番号	総曝光量				
		開始時	30 万 Lx・hr	60 万 Lx・hr	90 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状	WB01	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末	白色の粉末
純度試験 (HPLC) <※1>	WB01	適合	適合	適合	適合	適合
含量 (%) ※2 <93.0～107.0%>	WB01	101.1	100.5	100.1	99.9	100.5

※1：①RRT1.9 のピーク面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積の 3/5 より大きくない。 ②試料溶液のベタヒスチン以外のピーク合計面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積より大きくない。 ※2：表示量に対する含有率 (%)

(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」

1) 試験方法

[崩壊懸濁試験]

ディスペンサーのピストン部を抜き取り、検体 1 個をディスペンサー内に入れてピストンを戻し、約 55°Cの温湯 20mL を吸い取った。ディスペンサーに蓋をして 5 分間放置後、ディスペンサーを手で 15 往復横転し、崩壊懸濁の状況を観察した。十分な崩壊が認められない場合は、更に 5 分間放置後、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

上記の操作で十分な崩壊懸濁が認められない場合は、検体 1 個を分包し、上から乳棒で数回軽く叩いて検体を破壊し、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

[通過性試験]

懸濁液の入ったディスペンサーを経管チューブに接続し、約 2~3mL/秒の速度で注入した。チューブは体内挿入端から約 3 分の 2 を水平にし、注入端をその約 30cm 上の高さに固定した。注入後に適量の常水を注入してチューブ内を濯ぐときのチューブ内の残存物の有無にて通過性を観察した。

2) 試験結果

	崩壊懸濁試験	通過性試験
ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工 P」	5 分以内に崩壊・懸濁した。	8Fr.チューブを通過した。

本試験は、「内服薬 経管投与ハンドブック（株）じほう」に準じて実施した。

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「日医工 P」

1) 試験方法

[崩壊懸濁試験]

ディスペンサーのピストン部を抜き取り、検体 1 個をディスペンサー内に入れてピストンを戻し、約 55°C の温湯 20mL を吸い取った。ディスペンサーに蓋をして 5 分間放置後、ディスペンサーを手で 15 往復横転し、崩壊懸濁の状況を観察した。十分な崩壊が認められない場合は、更に 5 分間放置後、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

上記の操作で十分な崩壊懸濁が認められない場合は、検体 1 個を分包し、上から乳棒で数回軽く叩いて検体を破壊し、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

[通過性試験]

懸濁液の入ったディスペンサーを経管チューブに接続し、約 2~3mL/秒の速度で注入した。チューブは体内挿入端から約 3 分の 2 を水平にし、注入端をその約 30cm 上の高さに固定した。懸濁液を注入後に適量の常水を注入してチューブ内を濯ぐとき、チューブ内に残存物が認められなければ通過性に問題なしとした。

2) 試験結果

	崩壊懸濁試験	通過性試験
ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg 「日医工 P」	5 分以内に崩壊・懸濁した。	8Fr.チューブを通過した。

本試験は、「内服薬 経管投与ハンドブック（株）じほう」に準じて実施した。

2. その他の関連資料

なし